



# 博物館友の会だより

題字：千葉半厩

文化財ニュース

## 朝鮮鐘・<sup>にしん</sup>鮮蔵など修復がすすんでいます



修復のため搬出される朝鮮鐘の様子

常宮神社所蔵の国宝朝鮮鐘は、令和三年春から元興寺文化財研究所（奈良県奈良市）で経年劣化による錆除去などの修復中です。近年は収蔵庫の台座の上に保管されていましたが、かつては境内の鐘楼に吊られていたため、当時の旅行者が釣鐘に手を伸ばして書いたであろう江戸時代の墨書や紙札が鐘内部に残っており、これらも保存処置を行い判読しているところです。修復された朝鮮鐘は令和四年秋に神社へ戻ってくる予定です。

水戸天狗党

が幽閉された

荷蔵の一つで

ある「水戸烈

士記念館（旧

鮮蔵）」（敦

賀市指定文化

財）は、土壁

の損壊や柱の

腐食が問題と

なっています

たが、令和三

年十月から建

物の保存修復に向けた調査解体工事を実施しました。建物の各部材を手作業で丁寧に分解し、調査を行った結果、天井に敷き詰められた割竹の施工方法や土台の構造などが明らかとなりました。

この結果に基づき、令和四年度に建物を修理・

復原し、史跡武田耕雲斎等墓が位置する松島広場（旧松原公民館跡地）に移築することを予定しています。移築後は、史跡とともに水戸天狗党の歴史を知ることができる文化財として一体的な保存・活用を計画しています。

上屋解体の様子



## 若越八十八箇所をめぐる

友の会会長 川村 俊彦

平成二十七年に四国遍路が日本遺産に認定されたのを契機として、各地の巡礼路も歴史や仏教民俗の研究対象となる例が増えてきた。

敦賀にも、若越八十八箇所（敦賀四国道）の札所があり、コロナ禍で遠方への移動が心配される昨今、地元遺産・市内遺産として、この巡礼路を辿ってみるのも興味深い。

この案内書としては『お地藏さま』（森田和夫・立花恵秀編一九七六）が知られているが、その底本となった二点の冊子がある。

一つは嘉永四年（一八五二）刊行『敦賀新四国道しるべ』である。奥付に発起世話人として「唐仁はし町／新屋市左衛門」の外三名の名が見え、この頃に四国の写し遍路として札所が整備されたものであろう。順番に各札所の本尊や道のりが簡潔に書かれている。表題に「敦賀」の名を冠しているが、四十四番から五十四番までの十一箇所は若州佐田村から丹生浦まで若狭の敦賀半島域を含む。もう一つは大正十五年（一九二六）刊行の

『若越八十八ヶ所御詠歌』で、編集発行は西郷村大藪の野瀬彌三郎である。また調整発起人に同人と外二名、さらに信者人（協賛者の意か）として四十四名が名を連ねているが、いずれも大藪、金山、久々子、河原市など現美浜町域の人々である点が目を引く。

なお、詳述は省くが、前者と後者とは札所に若干の異同がある。

さて、現地を訪ねるといっても、律儀に順拝するのは実は難しい。立派なお寺はさておき、無住の祠堂や野中の草に埋もれたお地藏様や険しい山中の磨崖仏などは、ランダムに、可能な折に探訪するに如くはない。

そんな中で、いつも其々の地元の皆さんが熱心に保存に努めておられるのは感謝に堪えないが、第三十六番、山村雨谷の石割地藏尊・日月靈石では、最近、特に感銘を受けた。雨谷から黒河溪谷へすこし入ったあたりの林道の右手上方である。三十年ほど経とうか、初めて訪れたときは道らしい道とてなく、藪漕ぎしながら辿りついた記憶があるが、近年では行きたびに綺麗に整備されていて、しかもどうやら手作りらしく、いかにも地元の



第三十六番 石割地藏尊（左）と同参道入口

皆さんの篤実さが窺われて嬉しい。

御本尊は地藏尊立像の線刻磨崖仏で、世話方さんのお話では、弘法の爪かき地藏だと仰っていたが、それは木ノ芽中坂地藏の筈。それとも単に線刻の意味でどれも弘法の爪かき地藏というのか。

浅学の私には判断がつきかねるが、とまれ、今後とも折にふれ札所めぐりを続けたい。なにしろ、悪疫退散やら、戦争反対やら、祈願することは山積しているのだから。

## ○令和四年度前半展示の案内

### ■一・二階展示室

常設展示 敦賀を彩る歴史と文化

三月十六日(水)～六月十四日(火)

常設展では、特別展等の期間を除き一～二か月の間隔で一部のコーナーを入れ替えながら敦賀の歴史を紹介をしています。

### ■二階展示室

西福寺修復事業記念テーマ展

西福寺文書の世界

六月十五日(水)～八月七日(日)

日本有数の貴重な中世文書と、それを所蔵する西福寺大修復事業の概要を紹介します。

敦賀市ができるまで―敦賀市制85周年―

八月十日(水)～九月九日(金)

新市庁舎の完成と敦賀市制85周年を記念し関連の資料を展示します。



### ■三階展示室

敦博所蔵の絵画コレクションを期間ごとに

テーマをかえ展示します

花と鳥

三月十六日(水)～四月十九日(火)

鯉づくし

四月二十日(水)～五月二十六日(木)

水を描く

五月二十七日(金)～六月三十日(木)

寄贈絵画展

七月一日(金)～七月三十一日(日)

大和田家と大和田銀行

八月十日(水)～九月九日(金)

大和田家と銀行についてご紹介します。

江戸絵画セレクション～敦博の人気者～

九月十日(土)～十月十六日(日)

### ■二・三階展示室

特別展 敦賀藩物語(仮題)

十月二十日(木)～十二月四日(日)

敦賀藩についてご紹介します。

## ○令和四年度前半行事の案内

### ■三階展示室

博物館GWワークショップ

オリジナル鯉登り掛軸をつくるろう!

五月三日(火・祝)・五月五日(木・祝)

両日共十一時～正午・十四時～十五時

申し込み不要・参加費無料(要入館料)

滝登りをする鯉の絵を描いてミニ掛軸にします。



### ■全館

子ども建物見学会

八月十三日(土)・八月十四日(日)

(小学生は要保護者)

小学生・中学生を対象にバックヤードを含む建物見学会を行います。

☆☆友の会役員・スタッフの募集☆☆

友の会ボランティアスタッフ随時募集中です。ご興味のある方は事務局(25・7033)までお問い合わせください。

友の会活動報告

（連続歴史講座吉継カフェ）

友の会事務局長 面 隆史

昨年十二月、吉継カフェ（第十九回）

が開催されました。コロナ禍の中、主催者そして会場に足を運ばれた方々の感染を広げない行動があつて無事に開催、その後も問題がおきなかった事を嬉しく思います。

ところで皆さんにとって吉継カフェとはどのような会でしょうか？

大谷吉継研究の第一人者による最新の研究を聞ける会？

外岡先生に会える講座？などの様々な想いがあると思いますが、私の吉継カフェへの想いは仲間たちと出会えた感謝です。

私は足軽甲冑隊を率いてイベントなどで賑やかに行うという少し変わった活動をしています。この活動の始まりは吉継カフェで出会った方が「よっしー※」を興に乗せた足軽隊が練り歩く姿が観たいという言葉がきっかけでした。

その後、足軽甲冑を着て狼煙を上げた

い、関ヶ原や米原の吉継のお墓参りをしたい、寸劇をしてみたいなど吉継カフェで出会った仲間達から出てくるアイデアを皆で実現していき、お子さんや歴史が好きな方々に喜んで貰う為に、この原稿を書いている週末は丸岡城のまつり、翌週末は彦根城のおもてなし、そして翌々週には金崎宮の花換まつりへの出陣予定と充実した日々をおくれています。

今年も少し変わった趣味と一緒に楽しんでくれる仲間たちと吉継カフェ（第二十回）で集まれる事、そして益々市民の皆さんが大谷吉継に興味をもって頂ける機運が高まる事を期待しています。

※「よっしー」とは大谷吉継をモチーフにした敦賀市公認キャラクター



会場では吉継カフェ記録集2も販売しました。



特別告知！

ただ今東京で開催中！

## ふつうの系譜

「奇想」があるなら「ふつう」もあります

京の絵画と敦賀コレクション

会期 五月八日「日」まで

講座十対談イベントのご案内

「ふつうの系譜」の歴史と魅力

日時 四月十日（日）十四時

会場・東京都府中市生涯学習センター

無料 予約不要

講座「ふつうの系譜」の画家たちと敦賀

加藤敦子（敦賀市立博物館学芸員

講座「ふつうの美」の輝き

金子信久（府中市美術館学芸員）

対談 語って楽しむ「ふつうの系譜」

ご案内

令和二年三月に開幕し僅か

十七日でコロナで中止となった

展覧会が府中市美術館（東京

都）で再開しています！辻惟雄

著『奇想の系譜』で超有名な伊

藤若冲ですが、当館の豊富な絵

画コレクションに、実は若冲は

含まれていません。言うなれば

「奇想」以前から評価されてき

The exhibition is now open!

た当館の「ふつうに美しい」絵画コレクション。その神髄が味わえる展覧会です。学芸員による講座も予定しています。皆様機会があれば是非どうぞ！

### [編集後記]

子供の頃行ったきり数十年行った事ないわ。これ原の西福寺さんついてよく聞く会話ですが、いやいや勿体ないですよ、今からなら1ヶ月間は数種類の桜の花を賞でたり、盗蜜を働く可愛らしい雀を追いかけたりで楽しめますし、雨上がりなら書院庭園の池に流れる水の音色これにめっちゃ癒されるんです。

事務局長

### 博物館友の会だより 97号

令和4年3月31日発行

発行 敦賀市立博物館友の会  
事務局 敦賀市相生町7-8

TEL 0770-25-7033

FAX 0770-47-6131

E-MAIL museum@ton21.ne.jp